新入生は「大学理念」の何に惹かれるのか

―「違いを共に生きる・ライフデザイン」第1回課題の記述内容から―

増　地　ひとみ
MASUJI Hitomi

1.はじめに

愛知淑徳大学初年次教育部門では、初年次生必修の基幹科目「違いを共に生きる･ライフデザイン」（以下「違いライフ」）を開講している(注1)。大学理念「違いを共に生きる」を科目名に冠する本授業では、例年、新１年生に「入学前課題」を課す。入学式における講話の内容を踏まえて取り組むものである。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため入学式が中止となり、講話の聴講を前提とした従来の課題を課すことが不可能となった。

そこで講話と入学前課題の代替策として、本学ホームページに掲載されている「大学理念」「教育姿勢・方針」を各自が閲覧したうえで、〈心に残った言葉〉と〈その言葉が心に残った理由〉を記述するという課題を設定し、第１回授業で提示した。そして課題が提出されてみると、その記述内容は学生たちが率直に心の内を語る言葉であふれ、一授業担当者である筆者の所でとどめ置くには惜しい内容が多々見られた。本稿では、筆者が担当した約600名の新入生が本学「大学理念」「教育姿勢・方針」の何になぜ惹かれたのか、学生が記述した課題の内容を基に紹介し、今後の入学前課題の実施方法に関する提案を行う。

2.従来の入学前課題と2020年度の第1回課題

2019年度までの入学前課題の概要は、次のとおりである。新入生は、入学式で副学長による大学理念に関わる講話を聞き、その内容を踏まえて「自分がこれまでに他者との間で感じた違い」を指定用紙に記述する。分量は400字程度、手書きである。この課題用紙は、違いライフ第１回授業において提出させる。

2020年度は入学式が行われず、新入生が例年と同じ環境で本学の理念に関して知る機会は失われた。さらに、授業内容を準備していた４月の段階において、各新入生が置かれているオンライン学習環境が全く不明であった。例えば、動画の視聴が容易にできない学生の存在も懸念された。そこで学生間の公平性を担保すべく、インターネットにつながりさえすればスマートフォンからでも容易に閲覧可能な、大学のホームページを利用することにした。トップページの下方に常時掲載されている「Vision 大学理念」と「Policy 教育姿勢・方針」である。加えて、大学理念を簡潔に説明したスライドも用意した(注2)。ホームページに掲載されている大学理念は文字のみであるため、理解を助ける補助資料としてである。

新入生には、以下の課題を違いライフ第１回授業（オンデマンド方式）のスライドで提示した(注3)。

> 1. 愛知淑徳大学のホームページ、トップページ左下の「Vision 大学理念」（「Vision 学園理念」ではないので注意）と、「Policy 教育姿勢・方針」の「学園の教育姿勢」を読む。
> 2. 本日ダウンロードした「②第１回大学理念（違いライフ）」のスライドを見る。
> 3. 提出用紙に、以下を入力して提出してください。
> ①「Vision 大学理念」と「Policy 教育姿勢・方針」の「学園の教育姿勢」を読み、心に残った言葉
> ②なぜ、その言葉が心に残ったのだと思うか

この課題を５月12日（火）の第１回授業で配信し、提出締切は３週間後の６月１日(月)とした。学生がキャンパススクエアでのレポート提出に慣れていないこと、追加登録の学生が一定数存在することを考慮し、締切を長めに設定した。次章では３の①の集計結果を紹介する。

3.新入生が「大学理念」「教育姿勢・方針」を読み、心に残った言葉

筆者が2020年度に本科目で担当した610名のうち、再履修者を除く新入生は、以下の学科専攻の計598名であった。うち、第１回の課題を提出したのは581名である。以下、本稿では学科専攻を示すのにアルファベット３文字の学科専攻記号を用いる。

・文学部：国文学科（LJU）総合英語学科（LCU）
　　教育学科（LAU）
・創造表現学部：創作表現専攻（CSU）
　　建築･インテリアデザイン専攻（CKU）
・ビジネス学部：グローバルビジネス専攻（VGU）
・グローバル・コミュニケーション学部：
　　グローバル・コミュニケーション専攻（EXU）

「大学理念」「教育姿勢・方針」に書かれている見出しと文章とから新入生が抽出した「心に残った言葉」は、表１のとおりである。ホームページに掲載されている順序で列挙し、その右にその言葉を選んだ人数を学科専攻別に示す。１人が複数の「心に残った言葉」を挙げている場合もあるため、人数の合計は課題の提出者数と一致しない。各学科専攻の中で最も人数が多かった項目を太字で示した。また、学科専攻ごとに、選んだ人数の多い上位３項目を網掛けとした。さらに、上位５項目には人数の下に割合を併記した。表の左端の番号は、次章で使用するため便宜的に付したものである。

上位５項目まで範囲を広げると、新入生が惹かれた言葉には学科専攻による違いも若干見られるものの、全体として２番の「国籍、言葉、文化、性別、年齢、障がいの有無などのお互いの違いを認め、すべての命とともに生きる道を探求し続ける」が心に残ったと答えた新入生が多かった。

【表１】「大学理念」「教育姿勢・方針（学園の教育姿勢）」を読み、心に残った言葉（学科・専攻別）

	新入生が選んだ「言葉」	「言葉」を選んだ人数（人）							
	◆「大学理念」より	LJU	LCU	LAU	CSU	CKU	VGU	EXU	合計
1	違いを共に生きる	18 (15.0%)	17 (12.1%)	16 (11.5%)	15 (11.6%)	12 (12.0%)	8 (11.9%)	14 (17.9%)	100 (12.9%)
2	国籍、言葉、文化、性別、年齢、障がいの有無などのお互いの違いを認め、すべての命とともに生きる道を探求し続ける	**23 (19.2%)**	**20 (14.3%)**	**19 (13.7%)**	**26 (20.2%)**	**19 (19.0%)**	9 (13.4%)	**16 (20.5%)**	132 (17.1%)
3	「異なる価値観を交換し合うことによって新しい価値観を生み出す場」	16 (13.3%)	18 (12.9%)	11 (7.9%)	10	11 (11.0%)	**10 (14.9%)**	8 (10.3%)	84 (10.9%)
4	学生が相互に共存し啓発理解し合いつつ、学び合う	0	0	0	1	0	1	0	2 (0.3%)
5	地域に根ざし、世界に開く	2	5	10 (7.2%)	4	6 (6.0%)	5 (7.5%)	2	34 (4.4%)
6	地域社会の人たちと学び、地域と連携するために、ボランティアやインターンシップなどの多彩な活動を展開しています	0	1	1	0	0	0	0	2 (0.3%)
7	海外の多くの大学と交流協定を結び、留学生の受け入れも積極的におこなうなど、国際交流にも意欲的に取り組んでいます	0	0	0	0	1	0	2	3 (0.4%)
8	恵まれた環境を活かし、地域や世界の人々と共に学び合いながら、自分らしく生きる力を磨きます	3	7	4	5	4	2	2	27 (3.5%)
9	役立つものと変わらないものと	10 (8.3%)	7	9	7	3	5 (7.5%)	3	44 (5.7%)
10	実社会のさまざまな分野で役立つ実践的な力と、どんな時代にも変わることなく必要とされる普遍的な力の育成をめざしています	3	2	3	3	0	0	2	13 (1.7%)
11	専門教育と全学共通教育の２つの学びを有機的に組み合わせることにより	1	0	0	1	2	0	0	4 (0.5%)
12	課題発見能力や問題解決能力、コミュニケーション能力などを養いながら	0	1	0	1	2	0	0	4 (0.5%)
13	「たくましさとやさしさを」に書かれていること全て	0	0	0	0	1	0	0	1 (0.1%)
14	たくましさとやさしさを	10 (8.3%)	12 (8.6%)	14 (10.1%)	14 (10.9%)	4	1	5 (6.4%)	60 (7.8%)
15	ひとりの人間として社会で自立する礎となる「たくましさ」と「やさしさ」を育む、人が共に生きるための教育を重視しています	2	3	3	3	1	2	0	14 (1.8%)
16	日々の学びやさまざまな経験を通し、人生を主体的に切り拓く力を養うと共に、人を尊重し、自分にも誇りを持って生きる意識を高めています	10 (8.3%)	11	16 (11.5%)	16 (12.4%)	9 (9.0%)	3	6 (7.7%)	71 (9.2%)
17	自分のあるべき姿を見つめる契機	0	0	0	1	0	0	0	1 (0.1%)
18	**◆以下、「教育姿勢・方針（学園の教育姿勢）」より** 伝統は、たちどまらない。	6 (5.0%)	9	11 (7.9%)	12 (9.3%)	3	2	3	46 (6.0%)
19	「十年先、二十年先に役立つ人材の育成」	6 (5.0%)	13 (9.3%)	11 (7.9%)	4	6 (6.0%)	7 (10.4%)	5 (6.4%)	52 (6.7%)
20	新たな時代の大学として常に躍進をめざしています	1	4	2	1	1	2	0	11 (1.4%)
21	（**◆スライドより**）互いの違いを認め、尊重し合うことが、自分を最大限活かすことにつながる	4	9	3	2	9 (9.0%)	7 (10.4%)	6 (7.7%)	40 (5.2%)
22	（**◆スライドより**）いま役に立つ力と、普遍的な力とをバランスよく修得できる	0	0	0	0	0	0	1	1 (0.1%)
23	**「教育姿勢・方針（学園の教育姿勢）」およびスライドのその他の箇所**	5	1	5	3	5	1	2	22 (2.8%)
24	**「学園理念」のページに書かれていること（課題の指定範囲外）**	0	0	1	0	1	2	1	5 (0.6%)
	合計	120	140	139	129	100	67	78	773 (100%)

4.「言葉」が心に残った理由―自由記述より

では、新入生は表1に挙げた言葉が自分自身の心に残った理由を、どのように分析し、言語化したのか。あるいは、理由を課題として問われたことにより、どのように思考を広げ、深めていったのか(注4)。3の②の記述内容をいくつかの観点から分類し、引用する(注5)。引用した記述内容の後に、その学生の「心に残った言葉」(表1左端の番号を使用)と所属を示す。

4-1. 大学の理念や姿勢に対する感動、大学への期待

◆「学園の教育姿勢」は初めて知る情報ばかりでした。これまでの常識や現在の主流などにとらわれず、新しいことに挑戦していくことで、愛知淑徳大学が現在のように大きく多様性のある学校になっていったことを知り、驚きました。(中略)「十年先、二十年先に役立つ人材の育成」はただグローバル化や情報、インターネット社会に対応するという意味ではなく、どんな人も、個性も認められていくための教育だと私は思いました。「十年先、二十年先に役立つ人材の育成」という言葉から先を見据える力や考え方の重要性を感じました。(19、LAU)

◆何故この言葉が最も心に残ったかというと、この学園の理念や方針を読んでいてものすごく大切な考え方であり今まで違いを共に生きるということを意識したり深く考えた事がなかったからだ。国籍、言葉、文化、性別、年齢、障がいの有無などのお互いの違いを認めるというのは今を生きる私たちにとても大切な課題でありこの先社会人になるのに必要不可欠だと感じた。そして多様化している現代社会には、主体的に切り拓く力と、人を尊重し、自分にも誇りを持って生きる意識を高める、そんな力がとても大切で、その力を育ててくれるこの学園に入学したことを誇りに思う。(1、EXU)

◆世の中には色々な人がいてそれぞれ個性を持っている。だから時に違いを認めあうことができず理解できないこともあるかもしれない。ゆえに悲しいことに差別・偏見というのはこの世の中で生きている限りなくならない。しかし、私は愛知淑徳大学の「学園の教育姿勢」を読んで、最後の一文に本当に感動した。私は、この一文にあるようにお互いの違いを認め合い、全ての人と共に生きていこうと改めて決意した。また、この教訓が大学だけでなく、社会全体に広まれば今よりもっと幸せな社会になると思った。(2・20、LAU)

◆「たくましさ」と「やさしさ」が心に残った理由は、幼いころから母から教わったことと一致していたため親近感がわき共感したからです。例えば、自分がされて嫌なことは他の人にはやってはいけない、相手の気持ちを考え優しい気持ちを持つこと、また皆があの子が嫌い苦手と言っていたとしても自分は自分で他人に流されないたくましい気持ちを持って行動する、等様々なことを教わりました。そして愛知淑徳大学は私が他人と共存するなかで大事に思ってきたことを重視していたので嬉しく思いました。(15、LCU)

◆私は愛知淑徳大学の大学理念を見て、ある言葉が心に残っていました。それは、「違いを共に生きる」です。進路を悩んでいた時期の私は、この言葉に惹かれて大学に興味を持ちました。グローバル化という言葉が日に日に身近になる現代日本ですが、いまだ、性別や信教、文化などが共生しているとは言えません。だからこそ、この理念が印象的でした。加えて、その解説文がまた魅力的だったのです。「全ての命とともに生きる道を探求し続ける」。私はこの一文を読み、これは大学の教育姿勢である「伝統はたちどまらない」にも通ずるところがあると感じました。変化を恐れないその姿勢から、現代社会に必要な学びが得られる学び舎であると解釈するに至りました。(1・2、EXU)

◆自分は先のことを考えて行動することが苦手で、そのせいで失敗したことや困ったことがたくさんあります。だから教育方針に「十年先、二十年先に役立つ人材の育成」があるのはとても心強く、これから自立していくためにも先のことを考えられるようになろうと思ったからです。(1・19、LAU)

◆いつまでも変わり続けることをやめないこの理念は、四年間で変わっていくだろう私たちに寄り添っていてくれているようだと思いました。(8・18、CSU)

◆「すべての命と共に」この部分が特に心に残った。どんなに落ちぶれようと、腐ろうとも、寄り添って支え続けてくれるのだと、心強く感じた。(2、LJU)

4-2. 今後の学びへの期待、抱負

●なぜ心に残ったのかといえば、私は大学に対しては「自己の学びたいことだけを突き詰めていく場」と認識していたからである。もちろんそういった面もあるのであろう。しかし、ただ単純に自分が探求したいものだけを追い続け、それが終わったとしてそのあとはどうしたらよいのか。そういった不安があった。このテーマが示すような、自分が今後生きていくうえで必要な知識と経験を身につけることができる。そのうえで、自分がやっていきたいことをやって許される。そんなバランスの取れたテーマであったので、安心感とともにこの大学で学びたい、という意思をよりもつことができたように感じたため、心に残ったのであろうと考えた。(9、LJU)

●愛知淑徳大学の理念の、違いをお互いに認め、尊重し、それが自分を最大限活かすことにつながるという考え方が自分にとって驚きであり、とても素晴らしいことだと思った。(中略)「違いライフ」を受講することを通して、様々な違いについて学び、明確な自分の考えを持ち、違いを認めるすべを身につけていきたい。(1、CSU)

●生まれた所、育った所など違う点がいっぱいあるのでみんな違うのは当たり前なのに、それを認めることはなかなかできていないと思います。（中略）自分が無意識のうちに違いを認めていない場面があるのでは？と思うと怖いです。だからさまざまな人の違いを認め共に生きるということを大学生活を通して学べるのは素敵だなと思いました。だからこの言葉が心に残りました。（2、CKU）

●この教育理念には私たちに社会人に必要な力を身につけてほしいというメッセージが込められていると感じました。人生を主体的に切り拓くことによって主体性を養う。人を尊重することによって協調性を養う。自分に誇りを持って生きる意識を高めることによって積極性や説得力を養う。こうした力を得るために日々様々な経験を積み、その経験から何を学ぶかを大切にしていきたいとこの言葉から感じました。（16、EXU）

●大学の理念に「違いを共に生きる」とあるように、自分の能力を知り、他の能力と比べることはせずに他人は他人と割り切ることが自分の成長につながるのかなと思った。他人は他人で得意分野があるように、自分にも得意分野はある。その長所を伸ばしていくことが自分アイデンティティを確立させることの重要なポイントになると思う。それをこの大学で養っていこうと思う。（8、VGU）

●自分に誇りを持って生きる意識を持つというのは中学・高校で触れたことのない考え方だったので大学は今まで経験した学校生活とは違った方向性を持った場なのだと改めて感じました。私も自らの誇りにできるような学びを得る機会を積極的に作っていきたいです。（16、CSU）

●他人の違いを認め尊重することは、人間の生活にとって必要不可欠であり、自身の違いを相手に認めてもらえることにつながることに気づいた。この大学でさらに人間関係を広げ、さまざまな経験をすることで、今までに培った人間性を見直し、磨きをかけ、自分自身に誇りを持てる社会人を目指したい。そのことから、たくましさとやさしさを養うという教育理念が心に残った。（14、LAU）

●人は文化や年齢、差別、国籍など様々な点で異なる。異なる価値観であってもその価値観をお互いに理解しあい、相手の価値観を認め合うことで自分自身を生かし生きるための道を開き、成長できる言葉が心の中で響いたからだ。また、自分らしさを糧にこの大学生活で違いを共に生きて社会に貢献したいと強く感じたからだ。大学生活で異なる価値観を交換し合い、新しい価値観を生み出すために多彩な活動に参加し、社会に必要な力を得て、学びながら違いを共に生きたい。（1、LCU）

●人生を主体的に切り拓くという言葉が胸にぐっと来た。理由は様々な職業選択ができる情報過多な社会において、考えるのを放棄して決められたルートに乗るのではなく、人生を「主体的に切り拓く」難しさとしっかり向き合うという強さに感動し私も持ちたいと思ったからである。また、「自分にも誇りを持って生きる」には、厳しい局面でも自分に負けずやり遂げるという達成感の上で成り立つと思うので、この４年間でそのような人間に少しでも近づけるよう努力したいと思った。（16、CSU）

●「たくましさ」と「やさしさ」を育む教育理念が僕の目指していた自分のあるべき姿を見つけ出す契機となることが分かったからである。僕は、大学に入る前から自分にしかできないこと、自分が社会で役立てることなどについて模索していた。その結果、愛知淑徳大学に入学することになった。そして、改めてこの教育理念を見て自分の目指すべきところはここだと思った。（14、CSU）

●私がこの二つの言葉を見て、一番にイメージしたのは「ジーンズ」です。年齢や性別を問わずどんなファッションにも適応する「ジーンズ」が、どんな時代にも必要とされる普遍的な力を持った服だと思いました。1870年にアメリカで鉱夫のために作られたのがはじまりでしたが、その後世界各地に広まり、ブーツカットやダメージ加工が施され時代のニーズにこたえてきました。そんなジーンズのような幅広く必要とされる人間になるべく本校に入学したと思うと、意欲がさらにわき、新たな目標ができました。以上の理由からこの言葉が強く心に残ったのだと思います。（10・19、CKU）

●私は将来教師になりたいです。もし、私が教師になったら、自分を隠さないで、自由に自分自身を周りに表現できるような居心地の良いクラスにしたいです。なので、この大学理念は私が目指したい理想像に近づくためにはとても重要なことだと感じました。（3、LAU）

●この言葉が胸に残った理由は、十年先、二十年先に役立つ人材の育成とは、自分たちのこと、そして、私たちが教えていく子供たちのことを言っていると思ったからです。私たちは、十年先、二十年先に役立つ人材を育成するために、まずは、私たちが役立つ人材にならなければいけないと強く心に思いました。（19、LAU）

●私の将来の夢は国語教師です。教師になれなかった。やめてしまった。となったときに自分に残るのは知識だけになってしまう可能性があります。しかし、「普遍的な力」を学ぶことができれば違う職に活かすことができる。そもそも教師として「普遍的な力」を生徒にも教えることができるようになる。と共に「普遍的な力」を連鎖させて教師として最大限の影響力を与えられると感じました。そうすることで他人を尊重しながら自分自身にも誇りを持ち目的意識が明確な中生活していけると考え

ました。将来の夢などに非常に関連した項目だったのでこの言葉が心に残りました。（10、LJU）

●「人を尊重し、自分にも誇りを持って生きる意識」という文を見たとき、何か胸にストンと落ちるものがありました。「違いを認める」は言い換えれば「違いを愛す」であり、他人と自分との違いを愛せたときに他者への尊重が可能となり、理想の自分と現実の自分とのギャップを愛せたとき、コンプレックスから解放され誇りをもって生きられるのだと考えます。今後の自分の課題が明らかになったため、これらの言葉が心に残りました。違いを愛することのできる自分を目指し、努力していきたいと思います。（14・16・2、LJU）

●これからの自分の人生に最も必要なことだと思ったからです。私たちは高校生まで両親の手の中で大事に育てられてきましたが、大学生になると、大人として勇ましく生きていかなければなりません。だからこの言葉を読んだ時、今まで様々な場面で支えて下さっていた方々や両親に感謝することを忘れず、自分を認めるための努力を惜しまず、夢に向かって一歩ずつ進もうと改めて思いました。（21・16、CKU）

●ここ十年や二十年で様々なことが起こった。例えばSNSが普及したり大災害が起こったりした。その他にもいろいろな変化があったが、総じて言えることは十年前や二十年前と全く同じ考えでは今を生きていけないだろうということだ。その中で私たちは現在のみに対応する考えや知識だけでなく、十年先、二十年先を見据えた考えや行動を学んでいく必要があるのだと感じたためこの言葉が心に残った。（19、CSU）

●自分の中の世界観は狭く、新しい刺激に触れていないと柔軟に考えられなくなるだけでなく、わがままで自分勝手な人間になると思っている。しかし、コミュニケーションのなかで相手を思いやるためには、相手の立場や思いを知り、理解することが必要だと感じてきた。異なる価値観を交換することは、自分だけでなく、他者を思いやれる心を育み、さらに、どんな時でも相手を理解しようとする姿勢も培うと考えられた。私もそのような優しい人間になりたいと思ったから、この言葉に釘付けになったのだと思う。（3、LJU）

4-3. 自身の今後に希望を見いだす記述

■私にはまだ将来の夢も無く、自分に自信がありません。そのため、大学生活では自分が本当にやりたいことはなにか、そして自分に自信をつけたい！という思いで、大学に入学してきたので、この言葉が心に響きました。このような時期ですが、学校が再開し、周りの仲間と話す機会が増えたら、沢山お話しして相手のことを知り、自分のことも知ってもらいたいです。そして何事にも全力でチャレンジして、特技であったり、自分が本当にやりたい事を見つけていきたいと考えています。（16、VGU）

■まだ 20 年も生きていない私ですら日々、世の中が変化していることをとても実感しています。（中略）めまぐるしい日々の変化についていけないと思うことも増えています。なので、変化した以前との違いや新しく発見した価値観の違い、性別、国籍、文化、外見など全ての違いと共に生きていくという理念に、自分もそうなりたい。と強く思ったので心に残ったのだと思います。（1、CSU）

■自分には主体性と誇りを持つという部分が足りていないと考えているので、これから4年間このようなテーマを掲げた大学で積極的に学ぶことで自分に足りない部分を補い、大きく成長できると感じたからです。（16、CKU）

■自分は、主体性もあまりなくて流されることが多く、自分に自信が持てない人間なので、4年間を通して直して成長につなげたいと思うことができました。（16、CSU）

■今の自分は自分に誇りを持ったり、積極的に行動したりすることができません。今までの学校生活はあまり自分というものを主張しないで過ごしていました。けれど、ひとりの人間として社会で自立するためには、自分というものをしっかりと理解し、積極的に行動できる人にならなければならないと思います。そのため、愛知淑徳大学で「たくましさ」と「やさしさ」を育み、人間として成長し、自分のあるべき姿を見つけ、社会に貢献するような人になりたいと思いました。（14、LCU）

■この言葉によって、目まぐるしく変化するこの時代に臨機応変に対応する力が今の若い私たちに求められ、尚且つ何十年先も継続する必要があると思ったからである。まだ、私には夢もなければ成績優秀でもないがこの大学四年間で社会に必要とされるスキルや洞察力、人脈づくり、対応力を培っていきたいと思った。（19、LCU）

4-4. この課題に取り組んだことによる（考えの）変化

●他者との間に違いが存在してもいいと思ったから。他者との違いに対して悲観的になったり否定的な態度をとったりすることが多く、誰かと価値観を交換することがなかった。しかし、この言葉によって違いに対して否定的になるのではなく、まず自分の持つ違いに向き合って自分がそれを認め他者と価値観を交換し新しい価値観を形成しようという考えに変化した。（2・3、CSU）

●私は、正直に述べると、異なるものに、これまで嫌悪感さえ抱いていた。（中略）私は、今回の学習を通じて、他者との間の違いがあるのは、当然である。先入観を持たず、他者との違いに、お互い折り合いをつけ、認め合っ

ていくべきはないかと考察した。（1・2、LCU）
●社会人として仕事をするときに役立つ人材ではなく、その先を見据えた教育方針だったから。私は社会に出て働くときのなりたい人物像ばかり考えていたが、そこはゴールではなく通過点で、私たちが目指すのはもっと先にあることを教えてくれる言葉だと感じた。（19、LCU）

4-5. その他
◆この言葉とそこに書いてある文章を読んだとき、どこかで似た言葉を聞いたことがあると感じた。私が高校時代お世話になった古典の先生が退職される時に私たち生徒に残した言葉「不易流行」だ。世の中の発展や進歩だけでなく時間の流れに左右されない普遍的な力の大切さも教わった。大学理念には変わらないもの、役立つものがバランスよく習得できると書かれていた。私の心のどこかに「不易流行」という言葉が残っていたため、大学理念を読んだときに自然と心に響いたのだろう。（9、CSU）
◆私は伝統とはリレーのバトンように繋いでいくイメージでした。しかし、この言葉を聞いて、私は雪玉を転がしていくようなイメージを持ちました。雪の上で雪玉を転がすと表面にあったものは内側へと入って、大きくなっていきます。どれだけ大きくなっても、内側には必ず最初に集めた雪玉がある。「伝統はたちどまらない」も、伝統を大切にしながら、新たな意見と組み合わせ大きく進化をしていく、そんな意味ではないかと思いました。（中略）現代に合わせ、進化する。伝統だってその場でたちどまったりしない。そんなイメージを持って共感し、私はこの言葉が心に残ったのだと考えます。（18、CSU）

以上、約600人の中の一部の声を紹介した。全体として見ると、「以前から大切にしていることだから」「共感したから」「考えもしなかったことだから」「自分に不足しており、今後身につける必要があることだから」心に残った、という記述は学科専攻を問わず多かった。また、「自分に自信がない」という記述が散見されたが、課題に取り組むことによって「では、今後どうするのか」という建設的な方向に彼らの思考が動いた様子が伝わってきた。入学時から漠然と胸にかかえている不安が伝わってくる提出物も一定数あったが、それは大学の目指す教育姿勢を知ることで多少なりとも払拭された様子である。

今回のこの課題は、心に残った言葉を糸口として、学生が自分自身に向き合う契機になったといえるであろう。初年次生たちは、ありのままの自分を見つめ言語化する作業を通して、自身の課題に気づいたり、来たる大学生活と大学での学びに対する意欲を高めたりして、準備態勢を整えていたのである。

5. おわりに

本稿では、新入生が本学「大学理念」「教育姿勢・方針」を読んで何に惹かれたのか、学生が記述した内容を基にその一部を紹介した。最後に、本科目の入学前課題の実施方法に関する提案を行い、本稿を締めくくりたい。

従来の「違いを感じた経験」のみを記述させる課題では、本稿で掲載したような、これからの学びに対する前向きな姿勢や意欲が引き出されることはなかった。我々の提示する問いが、それを意図していないのであるから当然ではあった。しかし、大学入学時の学習意欲が入学後の学習全体に対して重要な意味を持つことを示唆する研究結果がある[注6]。さらに、入学前に大学について調べる行動が、入学後の成績に一定の望ましい効果を及ぼすことも示唆されている[注7]。本稿で述べた課題を2020年度は入学後に課したが、入学前に取り組ませるのも一つの方法であろう。ホームページに「自ら出向いて」行き、大学について調べる行動はその後の成績にプラスの影響を及ぼす可能性がある。また、ホームページを閲覧して取り組む形式の課題には、文章を好きな時間に自分のペースでじっくりと読んで咀嚼、消化し、気になった箇所は課題を仕上げるまで何度でもくり返し読むことができるというメリットもある。

結論として、2020年度前期に違いライフで課した課題は、新入生が充実した大学生活を送るための水先案内人となる可能性を秘めている。コロナ禍が収束して入学式が執り行えるようになっても、何らかの形で継続することを提案したい。本科目では従来、講義を聞く回とグループワークの回を1週おきに設定している。各自の印象に残った「言葉」をグループワークで他者と共有することも、初年次生にとっては貴重な体験だろう。

多くの2020年度入学者が思い至ったように、本学の理念は普遍的な価値観を体現しており、生涯にわたって人を導く道しるべともなるものである。大学入学時にその理念とじっくり向き合い、自身の内面に落とし込むことの価値は大きい。

注

1 本科目については、愛知淑徳大学初年次教育部門ホームページ「開設科目」「大学理念教育」を参照。https://www.aasa.ac.jp/shonenji/curriculum/policy.html（2021年1月5日現在） また、従来の授業内容については「2019年度 基幹科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」授業実施報告」（『愛知淑徳大学 初年次教育研究年報』第5号、pp.11-15）を参照。
2 高大連携推進提携校向けの本学の紹介用スライドを、2020年度違いライフ第1回授業用に修正したもので

ある。本稿における「スライド」は、PowerPointで作成したファイルをpdf化したものを指す。

3 例年と同じ質問「自分がこれまでに他者との間で感じた違い」も3の③として最後に問い、記述させた。

4 3の②の問いかけは「なぜ」であるので、学生は「理由」を記述することが求められる。しかし、理由を述べていない、つまり課題の要求に応えていない提出物も一定数見られる。ここでは理由を述べているかどうかは問わず、3の②に書かれていた内容を紹介していく。なお、記述内容の掲載にあたっては学生の許可を得た。自身の文章が掲載されることに対する喜びの声をチャットで送ってきてくれた学生も複数いた。掲載を快諾してくれた学生の皆さんに御礼申し上げる。

5 授業名を「違いライフ」とするなど字数調整を若干行い、明らかな誤字を修正した以外は原文のままである。見やすさを考慮し、異なる字体も用いて提示する。

6 渡辺哲司（2006）「事例研究 大学入学時・初年次の学習意欲と卒業までの学業成績」『大学教育学会誌』28（2）、pp.95-100

7 渡辺哲司（2007）「大学について調べる入学前の行動と入学後成績」『大学教育学会誌』29（1）、pp.164-168